

# I

## 履修概要

---

1. 入学から卒業まで	2
2. 履修登録	17
3. 授業	19
4. 単位制	21
5. 試験及び成績評価	25
6. 学籍・修業年限・学費	28
7. 学生サポート	31

# 1 入学から卒業まで

お茶の水女子大学では、確かな未来を担う人間を育成するために、学生が自律性と協調性を育み、論理的思考力と創造的探究心を習得できるよう、さまざまな教育方法を取り入れています。

とくに教育の基本をなす教養教育の特色は、「堅固な基礎的知識」の教授と「21世紀型リベラルアーツ教育」ですが、本学のリベラルアーツ教育は、問題を発見し、それを解決する能力を習得するお茶の水女子大学固有の教育プログラムで、既存の学問分野を越えた知識と学問の手法を提供します。

また、専門教育では、一人ひとりの意欲やニーズに柔軟に対応できるように、それぞれの学部・学科ごとにプログラムを設けた「複数プログラム選択型」教育を平成23年度から新設致しました。より一層、学修の効果を期待しています。

本学では、上記目標を達成するために、1「コア科目」、2「専門教育科目又は専攻科目・関連科目」、3「自由に選択して履修する科目」の大きく3つの学習区分が設定されており、その中で必修科目・選択科目が配置されています。

なお、学生は本学に原則として4年以上在籍し、各自の所属する学部のガイドラインに従って、124単位以上（生活科学部食物栄養学科については、138単位以上）の卒業要件単位を充足してください。

## 【学部・学科の構成】

文教育学部	人文科学科	哲学・倫理学・美術史コース、比較歴史学コース、地理学コース
	言語文化学科	日本語・日本文学コース、中国語圏言語文化コース、英語圏言語文化コース、仏語圏言語文化コース
	人間社会科学科	社会学コース、教育科学コース、心理学コース
	芸術・表現行動学科	舞踊教育学コース、音楽表現コース
	人文科学科・言語文化学科・人間社会科学科	グローバル文化学環

理学部	数学科
	物理学科
	化学科
	生物学科
	情報科学科

生活科学部	食物栄養学科
	人間・環境科学科
	人間生活学科

## (1) コア科目

コア (core) とは芯という意味です。コア科目は、これからの学修・研究における社会的関心が高く現代世界を理解するうえで重要と思われる問題領域や視点を核とし芯 (コア) となるべきものを、学生が主体的に模索し育成する際の一助となるよう設定されています。科目として、**文理融合リベラルアーツ**、**基礎講義**、**情報**、**外国語**、**スポーツ健康**に区分されます。(参考) 文教育学部-文教育学部履修規程 P. 179、理学部-理学部履修規程 P. 198、生活科学部-生活科学部履修規程 P. 208

### ① 文理融合リベラルアーツ

文理融合リベラルアーツは、文系理系にまたがる5つのテーマ：生命と環境、色・音・香、生活世界の安全保障、ことばと世界、ジェンダーにそって、講義・討論・発表・実験・実習・演習を組み合わせた系列科目群がつくられており、自然科学・人文科学・社会科学の3つの角度から多面的に学ぶ授業です。

これにより、高度な専門教育を支え、使いこなすための領域横断的な視野、変化に対応する判断力、発信・交渉能力など、生涯をとおして、自在 (リベラル) に使える技 (アーツ) を育成します。各系列の授業科目には、「講義」と「演習・実習・実験」の2種類があり、これを組み合わせ、知識と実践力を高めます。「講義」は隔年で、「演習・実習・実験」は

毎年同じ科目が開講され、2年間を1クールとして、当該系列のすべての科目が開講されます。「講義」では、テーマに立脚した課題学習を通じて、学問分野の基本を習得するとともに、自然・人間・社会の関係や相互作用を多面的に理解することを目的にします。「演習・実習・実験」は、少人数の演習形式で行われ、文献講読、実地調査、口頭発表など担当教員によって異なりますが、教員を含めたディスカッションを交えることを原則とした半期編成の授業です。聞き・読み・書き・語り・

計り・作るという作業を通じて、思考力やコミュニケーション力を養成します (いずれも2単位)。「演習・実習・実験」科目 (各系列の科目番号が20番台のもの) は、少人数の演習形式で行われる半期演習科目であり、原則として1科目20名を定員とし、各年度の初めに、Web抽選申請入力 (第3希望まで申請することができる) にもとづいて決定します。希望者が定員を超えた科目は抽選とし、その際は1年次の履修希望者を優先します。初回のオリエンテーションに出席し、所定の期日までにWeb抽選申請入力を済ませてください。

系列の科目を5科目 (10単位) 以上履修した者には、申請に基づき、成績証明書に「系列履修認定」が明記されます。文理融合リベラルアーツ科目は、原則として月、水、金曜の1・2限、3・4限に開講され (演習科目は、月曜または水曜の3・4限の前期)、1-2年次に受講しやすいように設計されています。しかし、受講年次については、制限を設けていないので、3-4年次も含めて計画的に履修できます。

## 科目一覧

系列1 生命と環境	系列2 色・音・香	系列3 生活世界の安全保障	系列4 ことばと世界	系列1 ジェンダー					
(講義)	(単位)	(講義)	(単位)	(講義)	(単位)				
生命と環境 1	2	色・音・香 1	2	生活世界の安全保障 1	2	ことばと世界 1	2	ジェンダー 1	2
生命と環境 2	2	色・音・香 2	2	生活世界の安全保障 2	2	ことばと世界 2	2	ジェンダー 2	2
生命と環境 3	2	色・音・香 3	2	生活世界の安全保障 3	2	ことばと世界 3	2	ジェンダー 3	2
生命と環境 4	2	色・音・香 4	2	生活世界の安全保障 4	2	ことばと世界 4	2	ジェンダー 4	2
生命と環境 5	2	色・音・香 5	2	生活世界の安全保障 5	2	ことばと世界 5	2	ジェンダー 5	2
生命と環境 6	2	色・音・香 6	2	生活世界の安全保障 6	2	ことばと世界 6	2	ジェンダー 6	2
生命と環境 7	2	色・音・香 7	2	生活世界の安全保障 7	2	ことばと世界 7	2	ジェンダー 7	2
生命と環境 8	2	色・音・香 8	2	生活世界の安全保障 8	2	ことばと世界 8	2	ジェンダー 8	2
生命と環境 9	2	色・音・香 9	2	生活世界の安全保障 9	2	ことばと世界 9	2	ジェンダー 9	2
生命と環境 10	2	色・音・香 10	2	生活世界の安全保障 10	2	ことばと世界 10	2	(演習・実習・実験)	
(演習・実習・実験)		(演習・実習・実験)		(演習・実習・実験)		ことばと世界 11	2	ジェンダー 21	2
生命と環境 21	2	色・音・香 21	2	生活世界の安全保障 21	2	ことばと世界 12	2	ジェンダー 22	2
生命と環境 22	2	色・音・香 22	2	生活世界の安全保障 22	2	(演習・実習・実験)		ジェンダー 23	2
生命と環境 23	2	色・音・香 23	2	生活世界の安全保障 23	2	ことばと世界 21	2	ジェンダー 24	2
生命と環境 24	2	色・音・香 24	2	生活世界の安全保障 24	2	ことばと世界 22	2	ジェンダー 25	2
生命と環境 25	2			生活世界の安全保障 25	2	ことばと世界 23	2		
生命と環境 26	2					ことばと世界 24	2		
						ことばと世界 25	2		
						ことばと世界 26	2		
						ことばと世界 27	2		

**現代世界の鍵となる5つのテーマ**

新プログラム「文理融合リベラルアーツ」では、文系理系にまたがる5つのテーマ (生命と環境、色・音・香、生活世界の安全保障、ことばと世界、ジェンダー) にそって、講義、討論、発表、演習・実験・実習を組み合わせた系列科目群をつくり、自然・人文・実習を通して、読み・聞き・書き・語り・作るという5つの能力を養成します。演習では、テーマに関連するテキスト (書物や論文) を読み、発表・討論し、レポートを書くことで、読解力や表現力を高めます。「生物と環境」や「色・音・香」では、海の生物を採集し観察する実験やおいしさを作り出す実習で、自然の仕組みや生活技術を体感します。「生活世界の安全保障」では、NPOでのインターンシップなどを通して、実践力を養成します。

いずれも21世紀の世界の鍵となるテーマです。どの系列でも文理双方から問題を問いかけ、ここを「切り口」として知識と経験を広げ、主題を根源から理解することがゴールです。

**系列科目の構成**

**履修モデル**



## ② 基礎講義

基礎講義は、大学での勉学や社会生活で必要となる基本を学ぶ科目です。文理融合リベラルアーツの講義科目が課題に沿った学習であるのに対して、基礎講義は学問分野の体系にそって学ぶことで基礎力を育成します。1～2年次に受講しやすいように原則として月、水、金曜の1・2限、3・4限に開講されますが、3～4年次に学ぶことで基礎力を広げることができます。

### 科目一覧

科 目	単 位	科 目	単 位	科 目	単 位
哲学	2	ミクロ経済学入門	2	一般化学実験	2
現代心理学	2	マクロ経済学入門	2	安全管理概論	2
法学Ⅰ（日本国憲法）	2	基礎微分積分学	2	総合コース	2～4
法学Ⅱ（法学入門）	2	基礎線形代数学	2	お茶の水女子大学論	2
法と文学	2	統計学	2		
政治学入門	2	一般物理学実験	2		

## ③ 情 報

情報教育科目の「メディアリテラシ」では、大学における教育・研究活動で必要となる基本的な情報スキルや知識に加え、自立した人間として知識基盤社会で活躍するために最低限身に付けておきたい情報に関する知識を講義します。

「情報科学」では、情報に関する一般的な知識を講義します。「情報処理学」では、情報処理技術の歴史、現状及びその基盤となる学問等を概説します。「情報処理演習」は、すべての学部学科において1年次前学期の必修科目です。この科目では、現代の情報社会における情報の意味を考察し、情報を取り扱う態度を学びます。また、情報ツールを自ら構築し、使いこなし、各自の専門領域に取り入れる手法を、初歩から学んでいきます。学科を基本としたクラス分けで16クラスが開講されており、学部ごとに取り扱う題材が異なります。必ず指定されたクラスを1年次に履修してください。複数のクラスを履修することはできません。

「プログラミング演習1」では、一般的なプログラミング言語を用いて、コンピュータプログラミングの基礎を学びます。異なるプログラミング言語をあつかう複数のクラスが開講され、在学中にどれかひとつのクラスのみ履修できます。定員が定められているクラスについては、初回の授業に出席した者の中から受講者を決定します。各クラスの授業内容や用いるプログラミング言語、定員等については、シラバスを参照してください。

「プログラミング演習2」では、コンピュータプログラミング入門と、コンピュータを使って問題を解くことを考えます。複数のクラスが開講される場合には、在学中にどれかひとつのクラスのみ履修できます。定員が定められているクラスについては、初回の授業に出席した者の中から受講者を決定します。各クラスの授業内容や定員等については、シラバスを参照してください。

「コンピュータ演習1」では、自分専用のパソコンを使って、コンピュータの活用とプログラミングの初歩を学びます。与えられた環境でプログラミングだけを学ぶのではなく、必要なツールを入手し、自分用のパソコンをカスタマイズすることもあわせて修得します。毎回の授業に、各自がパソコンを持参してください。複数のクラスが開講される場合には、在学中にどれかひとつのクラスのみ履修できます。定員が定められているクラスについては、初回の授業に出席した者の中から受講者を決定します。各クラスの授業内容や定員等については、シラバスを参照してください。

「コンピュータ演習2」では、コンピュータにまつわるいくつかのトピックについて学びます。複数のクラスが開講される場合には、在学中にどれかひとつのクラスのみ履修できます。定員が定められているクラスについては、初回の授業に出席した者の中から受講者を決定します。各クラスの授業内容や定員等については、シラバスを参照してください。

「情報学演習1」及び「情報学演習2」では、情報にまつわるいくつかのトピックについて学びます。複数のクラスが開講される場合には、在学中にどれかひとつのクラスのみ履修できます。定員が定められているクラスについては、初回の授業に出席した者の中から受講者を決定します。各クラスの授業内容や定員等については、シラバスを参照してください。

### 授業科目一覧

科 目	単 位	備 考	科 目	単 位	備 考
メディアリテラシ	2		プログラミング演習2	2	定員あり
情報科学	2		コンピュータ演習1	2	定員あり
情報処理学	2		コンピュータ演習2	2	定員あり
情報処理演習	2	文A～文G、理A～理E、生活A～生活D	情報学演習1	2	定員あり
プログラミング演習1	2	定員あり	情報学演習2	2	定員あり

## ④ 外国語

本学で現在コア科目として開設されている外国語は以下の6言語です。

### 英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、朝鮮語

他に文教育学部の学部共通科目に、ギリシャ語、ラテン語、スペイン語、イタリア語、アジア諸語Ⅰ～Ⅳがあります。必修単位に認定される外国語の種類と必修単位数は、学部・学科別に以下のとおり定められており、各外国語の授業科目の中でも必修単位に認定される科目とされない科目があります。必修単位に認定される科目は各外国語の授業科目表に示されています。これらは学部・学科によって異なるので注意してください。また、履修に条件を設けた科目があるので、各外国語の授業科目表の履修条件欄にも注意してください。

### 授業科目一覧

学部・学科		必修となる外国語の種類及び単位数
文教育学部	人 文 学 科	外国語の必修単位数は16単位である。英語（10単位）・ドイツ語（16単位）・フランス語（16単位）・中国語（16単位）から1か国語を（ ）内に示された単位数修得すること。なお、英語を選択した場合、残りの6単位は、他の外国語（ドイツ語・フランス語・中国語・ロシア語・朝鮮語）から一つ選んで修得すること。外国語科目の修得単位数のうち、必修単位数を超える分は「自由に選択して履修する科目・単位」として卒業に必要な履修単位数に組み入れられる。
	言 語 文 化 学 科	外国語の必修単位数は20単位である。英語（10単位）・ドイツ語（16単位）・フランス語（16単位）・中国語（16単位）から1か国語を（ ）内に示された単位数修得すること。2つ以上の外国語（英語・ドイツ語・フランス語・中国語・ロシア語・朝鮮語から選択）の単位を修得し、合計20単位修得すること。なお、英語を選択した場合、残りの10単位は、他の外国語（ドイツ語・フランス語・中国語・ロシア語・朝鮮語から選択）で修得すること。外国語科目の修得単位数のうち、必修単位数を超える分は「自由に選択して履修する科目・単位」として卒業に必要な履修単位数に組み入れられる。
	人 間 社 会 学 科 芸 術 ・ 表 現 行 動 学 科	英語（10単位）・ドイツ語（16単位）・フランス語（16単位）・中国語（16単位）から1か国語を（ ）内に示された単位数修得すること。なお、ドイツ語・フランス語・中国語を選択した場合は、10単位を外国語の必修単位としたうえで、6単位を「自由に選択して履修できる科目の単位」とすることができる。このほか、外国語科目の修得単位数のうち、必修単位数を超える分は「自由に選択して履修する科目・単位」として卒業に必要な履修単位数に組み入れられる。
	グ ローバル文化学環	外国語の必修単位数は18単位である。英語10単位を必修とする。残りの8単位は、コア外国語のドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、朝鮮語、ないし学部共通科目のスペイン語、イタリア語、アジア諸語で修得すること。外国語科目の修得単位数のうち、必修単位数を超える分は「自由に選択して履修する科目・単位」として卒業に必要な履修単位数に組み入れられる。
理 学 部	数 学 科 物 理 学 科 化 学 科 生 物 学 科 情 報 科 学 科	英語、ドイツ語、フランス語、中国語のうち、一つの言語について8単位以上を修得しなければならない。なお、英語で外国語の必修単位を充たす場合、コア外国語の英語の授業科目（「基礎英語Ⅰ・Ⅱ」、「中級英語」）で6単位、及び「専門英語」（理学部の各学科の以下の専攻科目）で2単位を修得しなければならない。 数学英語（数学科）・物理英語（物理学科）・化学英語（化学科）・生物学外書講読（生物学科）・英文講読（情報科学科） コア科目の必修単位30単位のうち、外国語科目を12単位まで充てることができる。12単位を超える分は「自由に選択して履修する科目・単位」として卒業に必要な履修単位数に組み入れられる。
	生 活 科 学 部	英語、ドイツ語、フランス語、中国語のうち、一つの言語について8単位以上を修得しなければならない。なお、英語で外国語の必修単位を充たす場合、コア外国語の英語の授業科目（「基礎英語Ⅰ・Ⅱ」、「中級英語」）で6単位、及び「専門英語」（生活科学部の各学科の以下の専攻科目）で2単位を修得しなければならない。 食物栄養専門英語（食物栄養学科）・科学英語演習（人間・環境科学科）・発達臨床心理学専門英語（発達臨床心理学講座）・生活社会科学専門英語（生活社会科学講座）・生活文化学専門英語（生活文化学講座） 8単位を超える分は、コア科目の必修単位または「自由に選択して履修する科目・単位」として卒業に必要な履修単位数に組み入れられる。

# ● I 英語

## 1 授業科目

科目	単位	対象学年	内容	履修条件
* 基礎英語 I・II	各2	1	基礎的英語力を充実させる。	同一年度で I・II を連続して履修することが望ましい。
* 中級英語 I・II (文教育学部)	各2	2	中級レベルの英語力を充実させる。reading/listening、speaking/writing の2分野から選択して履修する。ただし、speaking/writing は中級英語 I・II のいずれかのみで履修可能。	「基礎英語 I・II」の単位を修得していること。同一年度で I・II を連続して履修することが望ましい。
* 中級英語 (理学部・生活科学部)	2	2	中級レベルの読解力・聴解力を充実させる。	「基礎英語 I・II」の単位を修得していること。
** 総合英語 I・II (文教育学部)	各2	1～2	中級レベルの英語力を充実させる。reading、listening、writing、speaking の4分野を組み合わせて開講する。	「基礎英語 I」を履修していること。
総合英語 (理学部・生活科学部)	2	2	中級レベルの英語力を充実させる。reading、listening、writing、speaking の4分野を組み合わせて開講する。	「基礎英語 I・II」の単位を修得していること。
** 英会話 I・II	各2	1	基礎的な会話力を養成する。	「英会話 I」については「基礎英語 I」を、「英会話 II」については「基礎英語 II」を履修していること。
** 英会話 III・IV	各2	2～4	自分の考えをまとめて表現するのに十分な会話力を充実させる。	「基礎英語 I・II」の単位を修得していること。
上級英語 I・II	各2	3～4	reading、listening を中心として、高度な英語力を充実させる。授業は原則として英語で行われる。	英語の単位を最低 10 単位修得していること。文教育学部の学生は、英語 10 単位を*のついた基本科目(8単位)と**のついた準基本科目で修得していること。理学部・生活科学部の学生は、英語 10 単位を*のついた基本科目(6単位)と「総合英語(理学部・生活科学部)」、所属学科・講座の専門英語、または「英会話 I-IV」で修得していること。同一年度で I と II を連続して履修することが望ましい。
ビジネス英語 I・II	各2	2～4	ビジネスに用いられる英語力を養成する。	英語の単位を最低 8 単位修得していること。文教育学部の学生は、英語 8 単位を*のついた基本科目(4単位以上)と**のついた準基本科目で修得していること。理学部・生活科学部の学生は、英語 8 単位を*のついた基本科目(4単位以上)と「総合英語(理学部・生活科学部)」、所属学科・講座の専門英語、または「英会話 I-IV」で修得していること。同一年度で I・II を併せて履修することが望ましいが、I・II はそれぞれ単独での履修も可。
時事英語 I・II	各2	2～4	時事英語の知識に基づいた英語力を養成する。	
英語プレゼンテーション I・II	各2	2～4	自分の考えや研究成果を発表するための英語力を養成する。	

注) ① \* 全学部の学生がコア科目(外国語)の必修単位に充てることができる基本科目です。

\*\* 文教育学部の学生のみがコア科目(外国語)の必修単位に充てることができる準基本科目です。ただし、英語の必修単位に充てる場合は、\*\*の科目を合わせて2単位を限度とします。

- ② コア外国語の必修単位に充てることができない科目の単位は、自由に選択して履修する科目の単位に充てることができます。
- ③ 科目名の I、III は前期開講科目、II、IV は後期開講科目を示します。
- ④ 対象学年は、必修単位を満たす外国語として英語を履修する場合の指定です。ただし、英語を必修外国語としない場合でも、履修条件を満たすように履修してください。
- ⑤ 4 履修に関する特別措置【P. 8参照】に該当する学生は、言語文化学科(英文研究室)の判断で指定されたクラスを履修します。該当する学生は、履修手続きの前に英文研究室(文教育学部1号館419号室)に相談してください。

## 2 クラス編成

科目	対象学年	編成のされ方	備考
基礎英語 I・II	1	入学時に受験する TOEIC スコアを基に習熟度別クラス編成を行い、指定されたクラスで履修する。	
中級英語 I・II (文教育学部)	2	1 年次学年末に受験する TOEIC スコアを基に習熟度別クラス編成を行い、指定されたクラスで履修する。	
中級英語 (理学部・生活科学部)	2	1 年次学年末に受験する TOEIC スコアを基に習熟度別クラス編成を行い、指定されたクラスで履修する。	
総合英語 I・II (文教育学部)	1～2	初回の授業の際に、履修希望者がクラス定員の上限を超えた場合は、任意抽出方式により調整の上、受講者を決定する。その場合、2 年生に優先権がある。	
総合英語 (理学部・生活科学部)	2	初回の授業の際に、履修希望者がクラス定員の上限を超えた場合は、任意抽出方式により調整の上、受講者を決定する。	
英会話 I・II	1	I に関しては 1 年次の 4 月に、II に関しては 1 年次の 6 月に履修希望届を提出する。履修希望者がクラス定員の上限を超えた場合は、任意抽出方式により調整を行う。その場合、1 年生に優先権がある。	学年が同じ場合、「英会話 II」に関しては「英会話 I」を履修していない学生に優先権がある。
英会話 III・IV	2～4	初回の授業の際に、履修希望者がクラス定員の上限を超えた場合は、任意抽出方式により調整の上、受講者を決定する。その場合、文教育学部の学生に優先権がある。	学部が同じ場合、「英会話 III」に関しては「英会話 I・II」を、「英会話 IV」に関しては「英会話 I・II・III」を履修していない学生に優先権がある。
上級英語 I・II	3～4	初回の授業の際に、履修希望者がクラス定員の上限を超えた場合は、任意抽出方式により調整の上、受講者を決定する。	特別措置により必修単位を満たす科目として履修する学生に優先権がある。
ビジネス英語 I・II	2～4	同上	
時事英語 I・II	2～4	同上	
英語プレゼンテーション I・II	2～4	同上	

注) ① 上記各科目のクラス定員は 30 名です。

- ② 履修希望の提出等に関する手続きについては、学生センターの掲示をよく見て、指定された期間内に申込をしてください。
- ③ 再履修の必要がある学生は、再履修に関する措置【P. 8参照】に従って、履修希望届を提出してください。
- ④ 英語を必修外国語としない場合で 2 年次以降に「基礎英語 I・II」の履修を希望する場合は、再履修の場合(前項③)と同様の手続きで、履修希望届を提出して下さい。また、1 年次学年末に実施する TOEIC IP テストを受験しておいてください。
- ⑤ 言語文化学科英語圏言語文化履修コースの学生が「上級英語 I・II」及び「英会話 III・IV」に履修希望届を提出した場合、各クラスの定員に余裕がある場合のみ受講が可能となります。
- ⑥ 聴講については、クラス定員に余裕がある時にのみ許可します。

## 3 より高度な授業科目

上級レベルの英会話・英作文の学習を希望する場合は、文教育学部言語文化学科専攻科目の「英会話演習(上級)」「英



作文演習（上級）」を履修してください。それぞれのクラス定員は30名です。

なお、これらはコア科目の単位にはならないので注意してください。

#### 4 履修に関する特別措置

1) 入学以前に『実用英語技能検定』（文部科学省認定・財団法人日本英語検定協会主催）1級又は準1級、『TOEIC』（財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会主催）730点以上のスコアもしくは『TOEFL』（Educational Testing Service (ETS) 主催）において550 (PBT) / 213 (CBT) / 79 (iBT) 点以上のスコアを持っている学生に関する措置（「I-4 単位制」（2））【P. 21-23】参照）

※入学後に本学で実施する TOEIC IP テストのスコアは対象になりません。

a 入学以前に『実用英語技能検定』準1級、TOEIC730点以上815点未満のスコアもしくは『TOEFL』550 (PBT) / 213 (CBT) / 79 (iBT) 点以上580 (PBT) / 237 (CBT) / 92 (iBT) 点未満のスコアを持っている学生「基礎英語 I・II」に相当する4単位を認定します。残りの必修単位は、各学部・学科ごとに定められた「コア科目（外国語）の必修単位を満たすことができる科目」で充足させます。ただし、入学時に言語文化学科（英文研究室）が相応の英語力を有すると判断した場合は、残りの必修単位を「上級英語 I・II」で充足させることができます。

b 入学時に『実用英語技能検定』1級、『TOEIC』815点以上のスコアもしくは『TOEFL』580 (PBT) / 237 (CBT) / 92 (iBT) 点以上のスコアを持っている学生文教育学部の学生に関しては、「基礎英語 I・II」及び「中級英語 I・II」に相当する8単位を、理学部・生活科学部の学生に関しては、「基礎英語 I・II」、「中級英語」及び「総合英語」に相当する8単位を認定します。残りの必修単位は「上級英語 I・II」で充足させます。

2) 上記1)の『実用英語技能検定』、『TOEIC』もしくは『TOEFL』による単位認定資格を持たないが、それに相当する英語力を有する学生に関する措置

a 英語を必修外国語として履修する場合  
入学時に言語文化学科（英文研究室）の判断で指定された科目を履修し、これらの科目で英語の必修単位を充足させることを認めます。

b 英語を必修外国語としない場合  
履修を希望する年度初めに言語文化学科（英文研究室）の判断で指定された科目を履修してください。

\*上記の条件を充たし、単位認定を希望する者は、所定の期間に教務チームで単位認定の申請をしてください。

3) 第1年次終了まで（または、「基礎英語 I・II」の単位を修得するまで）に『実用英語技能検定』1級、『TOEIC』815点以上のスコアもしくは『TOEFL』580 (PBT) / 237 (CBT) / 92 (iBT) 点以上のスコアを得た学生に関する措置  
次年度の履修手続きの際、「上級英語 I・II」の履修を認めます。なお、英語を必修外国語として履修している場合は、残りの必修単位を「上級英語 I・II」で充足させることを認めます。

#### 5 再履修に関する措置

再履修が必要となった場合は、文教育学部の学生は文教育学部用指定クラスで、理学部・生活科学部の学生は理学部・生活科学部用指定クラスで履修して下さい。この場合、英語を必修外国語としている学生の履修が優先されます。

### ●II ドイツ語・フランス語・中国語

ドイツ語・フランス語・中国語は、基礎3クラスと発展2クラス、及び基礎会話クラス、初歩クラスが開設されています。

#### [ドイツ語]

##### 1 授業科目

科目	単位	対象学年	内容	履修条件
* 基礎ドイツ語（文法） I・II	各2	1	1年間をかけてドイツ語の文法を詳しく学ぶ。ドイツ語の文法体系はかなりしっかりしているので、1年間の学習を通じて高度なドイツ語の文章の読解が可能になる。	「基礎ドイツ語（演習）I・II」と同時に履修すること。同一年度でI・IIを連続して履修することが望ましい。
* 基礎ドイツ語（演習） I・II	各2	1	文法練習問題（作文を含む）を多くこなすことによって、文法知識がしっかり身につくようにする。	「基礎ドイツ語（文法）I・II」と同時に履修すること。同一年度でI・IIを連続して履修することが望ましい。

科目	単位	対象学年	内容	履修条件
* 基礎ドイツ語（応用） I・II	各2	1	読み・書き・話し・聞くという総合的な訓練を通じて実践的な語学力を養う。	同一年度でI・IIを連続して履修することが望ましい。
** 発展ドイツ語 I・II	各2	2	さまざまなジャンルの中級程度のドイツ語に取り組みながら、ドイツ語の力を伸ばす。	同一年度でI・IIを連続して履修することが望ましい。
** 発展ドイツ語 III・IV	各2	2	さまざまなジャンルの中級程度のドイツ語に取り組みながら、ドイツ語の力を伸ばす。	同一年度でIII・IVを連続して履修することが望ましい。
***基礎ドイツ語会話 I・II	各2	1~4	外国人講師による簡単な日常会話の演習。	同一年度でI・IIを連続して履修することが望ましい。
***基礎ドイツ語初歩 I・II	各2	1~4	ドイツ語文法の概略をつかみ、簡単な文章が読めるようにする。	同一年度でI・IIを連続して履修することが望ましい。

- 注) ① \* 全学部の学生がコア科目（外国語）の必修単位に充てることができる基本科目です。  
 \*\* 文教育学部の学生のみがコア科目（外国語）の必修単位に充てることができる準基本科目です。  
 \*\*\* 言語文化学科、グローバル文化学環の学生のみが、英語10単位またはフランス語、中国語16単位を\*もしくは\*\*のついた基本科目及び準基本科目で履修した場合に限り、残りのコア科目（外国語）の必修単位に充てることができる科目です。  
 ② 科目名のI、IIIは前期開講科目、II、IVは後期開講科目を示します。  
 ③ 対象学年は、必修単位を満たす外国語としてドイツ語を履修する場合の日安です。  
 ④ 4 履修に関する特別措置に該当する学生は、言語文化学科の判断で指定されたクラスを履修してください。

#### 2 クラス編成

- 1 クラス50名以内とします。指定されたクラスで履修してください。  
 1クラスの履修希望者が50名を超えた時は、調整を行います。

#### 3 より高度な授業科目

発展ドイツ語よりも高度な内容の学習を希望する場合は、文教育学部言語文化学科の専門科目を履修してください。  
 なお、これらはコア科目の単位にはならないので注意してください。

#### 4 履修に関する特別措置

- 1) 入学時に『ドイツ語技能検定試験』（財団法人ドイツ語学文学振興会主催）3級以上に合格している学生に関する措置（「4 単位制」（2））【P. 21-23】参照。）  
 a 3級合格者：「基礎ドイツ語（文法）I・II」「基礎ドイツ語（演習）I・II」に相当する8単位を認定します。  
 b 2級以上合格者：「基礎ドイツ語（文法）I・II」及び「基礎ドイツ語（演習）I・II」「基礎ドイツ語（応用）I・II」「発展ドイツ語 I・II」「発展ドイツ語 III・IV」のいずれかに相当する12単位を認定します。  
 2) 既にドイツ語を学んでおり、相当の実力があると認められる学生に関しては、必修単位を満たすことができる基本科目及び準基本科目以外の履修によって、必修科目を満たすことを認める場合があります。

#### [フランス語]

##### 1 授業科目

科目	単位	対象学年	内容	履修条件
* 基礎フランス語（文法） I・II	各2	1	フランス語の文法の基礎を修得し、簡単な会話や文章の読解ができるようになる。	「基礎フランス語（演習）I・II」と同時に履修すること。同一年度でI・IIを連続して履修することが望ましい。
* 基礎フランス語（演習） I・II	各2	1		「基礎フランス語（文法）I・II」と同時に履修すること。同一年度でI・IIを連続して履修することが望ましい。

科目	単位	対象学年	内容	履修条件
** 基礎フランス語（応用） I・II	各2	1	読み・書き・話し・聞くという様々な基本的な訓練を通じて実践的な語学力を養う。	同一年度でI・IIを連続して履修することが望ましい。
** 発展フランス語 I・II	各2	2	基礎を固めつつ、テキストの読解や様々な練習を通じて、フランス語学力の向上を図る。	同一年度でI・IIを連続して履修することが望ましい。
** 発展フランス語 III・IV	各2	2		同一年度でIII・IVを連続して履修することが望ましい。
***基礎フランス語会話 I・II	各2	1～4	外国人講師によるフランス語初歩の会話演習。	同一年度でI・IIを連続して履修することが望ましい。
***フランス語初歩 I・II	各2	1～4	フランス語文法の概略をつかむ。	同一年度でI・IIを連続して履修することが望ましい。

- 注) ① \* 全学部の学生がコア科目（外国語）の必修単位に充てることができる基本科目です。  
 \*\* 文教育学部の学生のみがコア科目（外国語）の必修単位に充てることができる準基本科目です。  
 \*\*\*言語文化学科、グローバル文化学環の学生のみが、英語10単位またはドイツ語、中国語16単位を\*もしくは\*\*のついた基本科目及び準基本科目で履修した場合に限り、残りのコア科目（外国語）の必修単位に充てることができる科目です。
- ② 科目名のI、IIIは前期開講科目、II、IVは後期開講科目を示します。  
 ③ 対象学年は、必修単位を満たす外国語としてフランス語を履修する場合の目安です。  
 ④ 4 履修に関する特別措置に該当する学生は、言語文化学科（仏文研究室）の判断で指定されたクラスを履修してください。

## 2 クラス編成

- 1 クラス50名以内とします。指定されたクラスで履修してください。  
 1クラスの履修希望者が50名を超えた時は、調整を行います。

## 3 より高度な授業科目

発展フランス語よりも高度な内容の学習を希望する場合は、文教育学部言語文化学科の専攻科目を履修してください。  
 なお、これらはコア科目の単位にはならないので注意してください。

## 4 履修に関する特別措置

- 1) 入学時に『実用フランス語技能検定試験』（財団法人フランス語教育振興協会主催）4級以上に合格している学生に関する措置（「4 単位制」（2）【P.21-23 参照】）  
 a 4級合格者：「基礎フランス語（文法）I・II」「基礎フランス語（演習）I・II」に相当する8単位を認定します。  
 b 3級以上合格者：「基礎フランス語（文法）I・II」「基礎フランス語（演習）I・II」「基礎フランス語（応用）I・II」「発展フランス語I・II」「発展フランス語III・IV」のいずれかに相当する12単位を認定します。
- 2) 既にフランス語を学んでおり、相当の実力があると認められる学生に関しては、必修単位を満たすことができる基本科目及び準基本科目以外の履修によって、必修科目を満たすことを認める場合があります。

## 【中国語】

### 1 授業科目

科目	単位	対象学年	内容	履修条件
* 基礎中国語（文法） I・II	各2	1	中国語の文法の基礎を修得し、簡単な会話や文章の読解ができるようにする。	「基礎中国語（演習）I・II」と同時に履修すること。同一年度でI・IIを連続して履修することが望ましい。

科目	単位	対象学年	内容	履修条件
* 基礎中国語（演習） I・II	各2	1	中国語の基礎的な演習を行い、簡単な会話や文章の読解ができるようにする。	「基礎中国語（演習）I・II」と同時に履修すること。同一年度でI・IIを連続して履修することが望ましい。
** 基礎中国語（応用） I・II	各2	1	簡単な文章の読解を通じて、中国語の基礎を修得する。	同一年度でI・IIを連続して履修することが望ましい。
** 発展中国語I・II	各2	2	標準的な中国語の文章の読解を行う。	同一年度でI・IIを連続して履修することが望ましい。
** 発展中国語III・IV	各2	2	基礎的学力を固めつつ、標準的文章の読解、及び聴解能力を高める。	同一年度でIII・IVを連続して履修することが望ましい。
***基礎中国語会話I・II	各2	2～4	外国人講師による簡単な中国語会話演習。	「基礎中国語（文法）（演習）I・II」を履修済みであることが望ましい。同一年度でI・IIを連続して履修することが望ましい。
***中国語初歩I・II	各2	1～4	中国語の入門を図る。併せて発音や聞き取りの練習も行う。	同一年度でI・IIを連続して履修することが望ましい。

- 注) ① \* 全学部の学生がコア科目（外国語）の必修単位に充てることができる基本科目です。  
 \*\* 文教育学部の学生のみがコア科目（外国語）の必修単位に充てることができる準基本科目です。  
 \*\*\*言語文化学科、グローバル文化学環の学生のみが、英語10単位またはドイツ語、フランス語16単位を\*もしくは\*\*のついた基本科目及び準基本科目で履修した場合に限り、残りのコア科目（外国語）の必修単位に充てることができる科目です。
- ② 科目名のI、IIIは前期開講科目、II、IVは後期開講科目を示します。  
 ③ 対象学年は、必修単位を満たす外国語として中国語を履修する場合の目安です。  
 ④ 4 履修に関する特別措置に該当する学生は、言語文化学科（中文研究室）の判断で指定されたクラスを履修してください。

## 2 クラス編成

- 1 クラス50名以内とします。指定されたクラスで履修してください。  
 1クラスの履修希望者が50名を超えた時は、調整を行います。

## 3 より高度な授業科目

発展中国語よりも高度な内容の学習を希望する場合は、文教育学部言語文化学科の専攻科目を履修してください。  
 なお、これらはコア科目の単位にはならないので注意してください。

## 4 履修に関する特別措置

- 1) 入学時に『中国語検定』（日本中国語検定協会主催）4級以上に合格している学生、『中国語コミュニケーション能力検定』（中国語コミュニケーション協会主催）において250点以上のスコアをもっている学生及び『漢語水平試験』（中国語コミュニケーション委員会主催）の2級以上に合格している学生に関する措置（「4 単位制」（2）【P.21-23 参照】）  
 A 入学時に『中国語検定』（日本中国語検定協会主催）4級以上に合格している学生に関する措置  
 a 4級合格者：「基礎中国語（文法）I・II」「基礎中国語（演習）I・II」に相当する8単位を認定します。  
 b 3級以上合格者：「基礎中国語（文法）I・II」「基礎中国語（演習）I・II」「基礎中国語（応用）I・II」「発展中国語I・II」「発展中国語III・IV」のいずれかに相当する12単位を認定します。
- B 入学時に『中国語コミュニケーション能力検定』（中国語コミュニケーション協会主催）において250点以上のスコアをもっている学生に関する措置  
 250点以上400点未満：「基礎中国語（文法）I・II」「基礎中国語（演習）I・II」に相当する8単位を認定します。  
 400点以上：「基礎中国語（文法）I・II」「基礎中国語（演習）I・II」「基礎中国語（応用）I・II」「発展中国語I・II」「発展中国語III・IV」のいずれかに相当する12単位を認定します。
- C 入学時に『漢語水平試験』（中国語コミュニケーション委員会主催）の2級以上に合格している学生に関する措置  
 a 2級合格者：「基礎中国語（文法）I・II」「基礎中国語（演習）I・II」に相当する8単位を認定します。  
 b 3級以上合格者：「基礎中国語（文法）I・II」「基礎中国語（演習）I・II」「基礎中国語（応用）I・II」「発展中国語I・II」「発展中国語III・IV」のいずれかに相当する12単位を認定します。



2) 既に中国語を学んでおり、相当の実力があると認められる学生に関しては、必修単位を満たすことができる基本科目及び準基本科目以外の履修によって、必修科目を満たすことを認める場合があります。

### ●Ⅲ ロシア語・朝鮮語

ロシア語と朝鮮語は、初歩クラスと会話クラスが開講されます。

#### [ロシア語]

##### 1 授業科目

科目	単位	対象学年	内容	履修条件
***ロシア語初歩Ⅰ・Ⅱ	各2	1～4	ロシア語の基礎を学ぶ。	同一年度でⅠ・Ⅱを連続して履修することが望ましい。
***ロシア語会話Ⅰ・Ⅱ	各2	1～4	簡単なロシア語会話の練習。	「ロシア語初歩Ⅰ・Ⅱ」を履修済みであることが望ましい。同一年度でⅠ・Ⅱを連続して履修することが望ましい。

注) \*\*\*人文科学科、言語文化学科、グローバル文化学環の学生のみが、英語10単位またはドイツ語、フランス語、中国語16単位を\*もしくは\*\*のついた基本科目及び準基本科目で履修した場合に限り、残りのコア科目(外国語)の必修単位に充てることができる科目です。

#### [朝鮮語]

##### 1 授業科目

科目	単位	対象学年	内容	履修条件
***朝鮮語初歩Ⅰ・Ⅱ	各2	1～4	朝鮮語の基礎を学ぶ。	同一年度でⅠ・Ⅱを連続して履修することが望ましい。
***朝鮮語会話Ⅰ・Ⅱ	各2	1～4	簡単な朝鮮語会話の練習。	「朝鮮語初歩Ⅰ・Ⅱ」を履修済みであることが望ましい。同一年度でⅠ・Ⅱを連続して履修することが望ましい。

注) \*\*\*人文科学科、言語文化学科、グローバル文化学環の学生のみが、英語10単位またはドイツ語、フランス語、中国語16単位を\*もしくは\*\*のついた基本科目及び準基本科目で履修した場合に限り、残りのコア科目(外国語)の必修単位に充てることができる科目です。

#### ⑤ スポーツ健康

##### 1 スポーツ健康の履修

全学部とも「スポーツ健康実習」2単位が必修です。

##### 2 授業科目

学部	必修科目		自由選択科目					
	スポーツ健康実習		スポーツ科学概論		健康科学概論		生涯スポーツ	
	単位数	履修年次	単位数	履修年次	単位数	履修年次	単位数	履修年次
全学部	2単位	1年次	2単位	1～4年次	2単位	1～4年次	1～3単位	1～4年次

注) ①「生涯スポーツ」の履修単位を「スポーツ健康実習」の単位に替えることは、原則的にはできません。

②「スポーツ科学概論」、「健康科学概論」、「生涯スポーツ」の単位は、コア科目(「スポーツ健康」の選択科目)として卒業単位の中に含めることができます。

##### 1) スポーツ健康実習

運動やスポーツを通じて健康や体力の維持増進を図り、あわせて自己の身体への理解と関心を深めることを目的とします。前期は主に体力の維持増進を目的として「共通フィットネス」を履修する。後期は開講される種目(テニス、バドミントン、ソフトボール、サッカー、ダンス、多種目など)の中から履修する種目を選択します。前・後期それぞれ2回ずつの講義が含まれます。

自己の体力水準を正しく知ってもらうために、4月と12月に体力診断テストを行います。

なお、傷害あるいは慢性疾患等で運動することができない場合は、軽運動クラスを選択することができます。

##### 2) スポーツ科学概論

人はなぜスポーツをするのか、スポーツは人にどのような影響を与えるのか、というテーマについて、人文・社会科学的視点からと生理学的視点から、それぞれ講義します。

##### 3) 健康科学概論

青年期、成人期を女性として健康に生きるための基本的な知識、考え方を学び、同時に健康をめぐる諸問題に対する関心を深めることを目的とします。

##### 4) 生涯スポーツ

生涯にわたって自らの生活の中に運動やスポーツを取り入れ実践していくことができる基礎的能力を高めることを目的とします。開講する種目は学生からの要望の高い種目が用意されます。各学期の第一週目にガイダンスと受講の受付をします。

### (2) 専門教育科目(必修プログラム)又は専攻科目・関連科目

#### ① 専門教育科目(プログラムに属する科目)

複数プログラム選択履修制度とは、「主プログラム」「強化プログラム」「副プログラム」「学際プログラム」の4つから構成されており、

- 深く専門的な知識を学びたい
- 将来の進路を考えて、幅広くさまざまな分野の知識や技能を身につけたい
- 分野を横断した最先端の学問領域を学びたい
- 国際理解を深めたい

など、学生が自分の目標にあわせて、学部の域を超えて、さまざまなプログラムを選択的に組み合わせることにより、多様で豊かな学びを構築するための制度です。

#### 「主プログラム」とは

自分の所属する学科から提供される知識や技能の基礎を学ぶプログラムをいいます。

#### 「強化プログラム」とは

専攻した分野をさらに深く、又は広く学ぶためのプログラムをいいます。

#### 「副プログラム」とは

自分の専攻した分野と異なる学習プログラムをいいます。

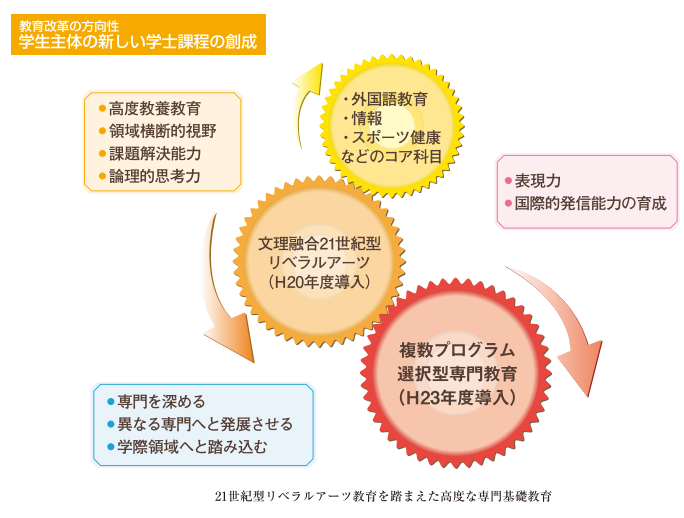
#### 「学際プログラム」とは

さまざまな分野を融合する最先端の知識や技能を学ぶ学際型プログラムをいいます。

皆さんは、自分の目標に合わせてプログラムを設定していくこととなりますが、一つ目のプログラム(第1プログラム)の設定は、自分の所属する学科の提供するものから選択しなければなりません。また、二つ目のプログラム(第2プログラム)は、所属学部の提供するプログラムを選択。三つ目のプログラム(第3プログラム)は、それぞれ他学科、他学部の提供する副プログラムや学際プログラムからも選択可能ですので、「Ⅱ 授業科目一覧」を見て確認してください。

また、プログラムの種類・内容及び単位数の関係については、次の表を参照してください。

第1プログラム	必修	主プログラム(自分の所属する学科から選択)
第2プログラム	選択必修	強化プログラム又は副プログラム又は学際プログラム(自分の所属する学部内から選択)
第3プログラム	自由選択	副プログラム又は学際プログラム



○プログラムの種類・内容及び単位数の関係表

プログラムの種類 (提供プログラム)	専門教育			プログラム内容等
	文教育学部	理学部	生活科学部	
主プログラム (20プログラム)	44 又は 48 単位	60 単位	42 又は 60 単位	各専門領域の基礎的な知識や技能を、一貫的で調和的に修得するためのプログラム。提供学科は、文教育学部芸術・表現行動学科及び生活科学部食物栄養学科を除く全学科
強化プログラム (19プログラム)	20 単位	20 単位	20 単位	各専門領域をさらに深く、または広く学ぶためのプログラム。提供学科は、文教育学部芸術・表現行動学科、グローバル文化学環及び生活科学部食物栄養学科を除く全学科
副プログラム (23プログラム)	20 単位	20 単位	20 単位	学生の多様な能力・適性及び学習意欲に応え、専門とは異なる分野の幅広い学習機会を提供するためのプログラム。 (提供学部学科) 文教育学部 13 ・哲学・倫理学・美術史プログラム ・比較歴史学プログラム ・地理環境学プログラム ・日本語・日本文学プログラム ・中国語圏言語文化プログラム ・英語圏言語文化プログラム ・仏語圏言語文化プログラム ・日本語教育プログラム ・社会学プログラム ・教育科学プログラム ・心理学プログラム ・舞踊教育学プログラム ・音楽表現プログラム 理学部 5 ・数学プログラム ・物理学プログラム ・化学プログラム ・生物学プログラム ・情報科学プログラム 生活科学部 5 ・人間・環境科学プログラム ・発達臨床心理学プログラム ・公共政策論プログラム ・ジェンダー論プログラム ・生活文化学プログラム
学際プログラム (6プログラム)	20 単位	20 単位	20 単位	新たな領域融合型ないしは学際型の専門領域に即応し、先端研究分野等で要請される新しいタイプの専門人養成に対応するためのプログラム。 (提供学部学科) 文教育学部 グローバル文化学環 ・グローバル文化学プログラム 理学部 数学科、物理学科、情報科学科 ・応用数理プログラム 理学部 物理学科、化学科 ・物理・化学プログラム 理学部 化学科、生物学科 ・ケミカルバイオロジープログラム 理学部 生物学科、化学科、情報科学科 ・生命情報学プログラム 生活科学部 人間生活学科 ・消費者学プログラム

- 注) ① 強化プログラムの履修は、同領域の主プログラムを履修していることが選択の要件です。  
 ② 副プログラムは、履修した主プログラムと同領域のものは選択できません。ただし、グローバル文化学を主プログラムとする学生は、所属する学科のいずれかのコース・講座の提供する副プログラムの履修を必修とします。  
 ③ 学際プログラムのうち、理学部の提供する4プログラムについては、理系の学生(理学部全学科と生活科学部食物栄養学科、人間・環境科学科)のみ選択できます。

④ 文教育学部芸術・表現行動学科と生活科学部食物栄養学科の学生も、副プログラム又は学際プログラムを選択することができます。

プログラムの選択方法

主プログラムは、理系の学生は、入学時点で決定しています(Webにより手続き【P.17参照】)。文系の学生は、1年次終了時(1月頃)にWeb申請し、申請者数(第一希望者の数)が受け入れ上限数を上回っている場合は、当該主プログラム提供学科(コース・講座)における選考により決定します。

- 第2プログラムは、文系理系とも2年次終了時に、Web申請により選択できます。
- 第3プログラムは、2年次終了以降、随時、Web申請可能です。

専門教育(専攻)科目の履修方法については次の規則や冊子を参照してください。  
 複数プログラム選択履修制度実施規則 …… P.178  
 文教育学部 文教育学部履修規程 …… P.179 及び「文教育学部履修案内」  
 理学部 理学部履修規程 …… P.198 及び「課程履修について」  
 生活科学部 生活科学部履修規程 …… P.208 及び「履修の手引き」  
 プログラム全般について不明な点は、総合学修支援センターにお問い合わせください。

②文教育学部 芸術・表現行動学科と生活科学部 食物栄養学科専攻科目・関連科目

文教育学部 芸術・表現行動学科と生活科学部 食物栄養学科は、複数プログラム選択履修制度とは異なる専門教育カリキュラムに従って学習します。なお、芸術・表現行動学科と食物栄養学科で学んでも副プログラム又は学際プログラムを選択することができます。

(3) 自由に選択して履修する科目・単位

自由に選択して履修する科目は、個々の学生が多様な関心や目的を達成するために、学生が自ら計画し、本学全体のカリキュラムの中から自由に選択履修をする科目です。  
 具体的には、専門教育科目(必修プログラム)は、プログラムとしてではなく、科目単位でも履修することができます。自由に選択して履修する科目の単位に充てることができます。また、各プログラム修了の必要単位数を超える分は「自由に選択して履修する科目・単位」として、卒業に必要な履修単位数に組み入れられます。

(4) 外国人留学生特別科目

●外国人留学生特別科目「日本語演習」、「日本事情演習」の単位の取扱い

日本語、日本事情の授業科目については、次の基準によりコア科目の単位として取扱います。

科目区分	コア科目として取扱う単位数の上限		
	【文教育学部】 合計 20 単位	【理学部】 合計 16 単位	【生活科学部】 合計 18 単位
コア科目 基礎講義(実験を除く)	(6 単位)	(10 単位)	
外国語	(16 単位)	(8 単位)	

開設する「日本語演習」、「日本事情演習」の授業科目は、次のとおりです。

科目	単位	毎週の授業時数	科目	単位	毎週の授業時数
日本語演習 I A	2	半期 2	日本事情演習 I A	2	半期 2
I B	2	〃	I B	2	〃
II A	2	〃	II A	2	〃
II B	2	〃	II B	2	〃
III A	2	〃	III A	2	〃
III B	2	〃	III B	2	〃
IV A	2	〃	IV A	2	〃
IV B	2	〃	IV B	2	〃
V A	2	〃	V A	2	〃
V B	2	〃	V B	2	〃



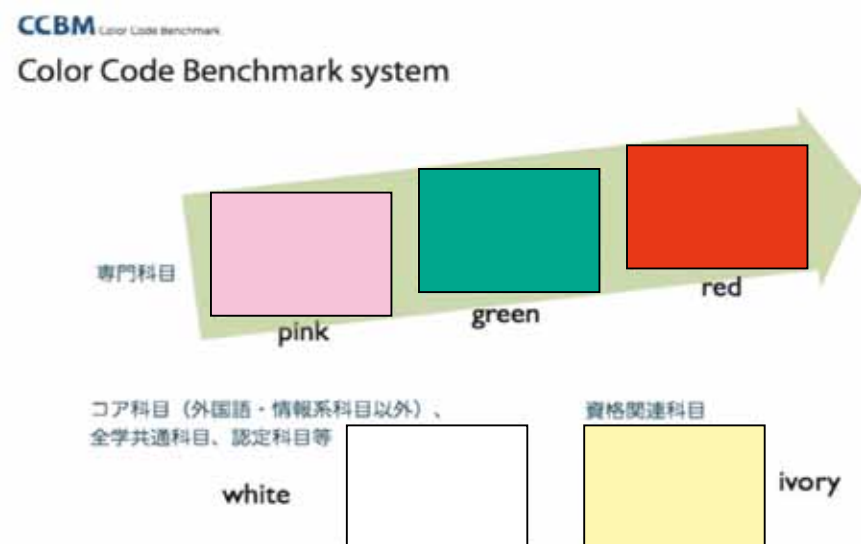
# 2 履修登録

## (5) カラーコードベンチマーク【CCBM】について

本学では、すべての授業科目について、カリキュラム構成上の位置づけや教育目標に照らした水準をわかりやすくシンプルな色彩別に明示しています。これにより、複数プログラム選択履修における個々の学生の目的に沿った履修計画を立てやすくし、学修支援の基盤のひとつとして機能させています。

### ●カラーコードの分類方法

授業科目の水準（ベンチマーク）が表すことは、主としてカリキュラム体系における一般的な学修の順序の目安です。多くの場合、それは授業内容の難易水準に沿っています。また、例外はありますが、それは概ね学生が到達すべき学習成果の目標の水準にも沿っています。ベンチマークは、基本的には、3階梯のシンプルな構造になっています。これに3つのカラーコード（ピンク・グリーン・レッド）を適用して識別しています。さらに教職科目等資格関連科目（アイボリー）や既修得単位や単位互換などによる認定科目（ホワイト）など、この分類に馴染まない科目として2分類を加えています。これによって、本学のすべての授業科目を5色のカラーコードに分類しています。



- 1 **ピンク** カリキュラム体系上、一般的な学修の順序からみればはじめに履修することが望ましいと考えられる科目。あるいは他の開講科目との関連で学修順序性は特にないが、授業内容の難易や到達すべき学習成果の目標の水準が比較的控えめに設定されている科目。
- 2 **グリーン** カリキュラム体系上、一般的な学修の順序からみてカラーコード・ピンクの科目を履修した後に履修することが望ましいと考えられる科目。あるいは他の開講科目との関連で学修順序性は特にないが、授業内容の難易や到達すべき学習成果の目標の水準がやや高く設定されている科目。
- 3 **レッド** 一般的な学修順序性からみてカラーコード・グリーンを履修した後に履修することが望ましいと考えられる科目。または、グリーン科目での成績について一定のグレードポイントをクリアした場合に履修が認められる科目。あるいは他の開講科目との関連で学修順序性は特にないが、授業内容の難易度や到達すべき学習成果の目標の水準が高く設定されている科目。
- 4 **アイボリー** 教職等資格関連科目。
- 5 **ホワイト** 既修得単位や単位互換などによる認定科目。

## (1) 授業科目の履修

### ① 履修科目の決定

授業時間割を基礎にして、各自の履修する科目を決めます。ほかに学年担当（一覧は別冊「時間割」1P）の教員の指導、この冊子の「学部履修規程」「開講科目一覧」「諸資格の取得」、別冊の「開講科目」、各学部の履修案内、**本学 Web ページ** (<http://yw.ao.ocha.ac.jp/Syllabus>) 内のシラバスを参考にしてください。

### ② 履修の手続きについて

履修登録は、学内に設置してあるパソコンから、Web 上で履修登録を行います。この手続きをしないと単位を修得することができませんので注意してください。おおまかな日程は、以下のとおりです。詳細は学生ポータルサイト又は学生センター教務用掲示板に掲示するので、各自で確認してください。なお、科目によって抽選で履修者を決定することがあり、希望した科目の履修が出来ない場合があります。

◇前期・通年科目（履修登録）	4月中旬
◇前期・通年科目（履修取り消し）	7月中旬
◇後期科目（履修登録）	10月上旬
◇後期・通年科目（履修取り消し）	1月上旬

### 履修登録上の注意点

- ・所定の期日以外、履修登録することはできません。
- ・履修未登録の場合その科目の試験を受けることはできません。
- ・授業に出ていても単位修得を希望しない場合は聴講となります。履修申請の際に聴講欄にチェックをしてください。

## (2) Web 履修登録マニュアル

### ① ログイン画面にアクセス

学内にある共用パソコンで「ID」「パスワード」を入力しログインしてください。次にデスクトップにある「IT Center ポータル」から「Web 履修システム」へと進みます。  
(共用の PC はラーニング・コモンズや IT ルーム等にありますが)

アクセスは、共用パソコン以外の学内のパソコンからでもできます。この場合、以下の URL を入力してください。「Web 履修システム」にアクセスされます。

URL <https://sw.ao.ocha.ac.jp>

### ② ログイン

- ・認証画面でお茶大アカウントの ID（ユーザー名）とパスワード（学籍番号、パスワード）を入力し、【ログイン】ボタンをクリックします。  
(お茶大アカウントは、学生用 WebMail (Active! Mail) で使用しているものです)
- ・ID、パスワードが間違っている場合は、ログイン画面が再表示されます。

■ログイン画面



# 3 授業

## ③ メインメニュー

- ・ログインした学生個人の情報が表示されます。
- ・各メニューの【Go!】ボタンをクリックすると次画面へ進みます。
- ・お知らせ欄は毎回必ず確認してください。

■メインメニュー画面



## ④ 履修申請

- ・履修関連－履修申請をクリックします。
- 具体的な操作については、シラバス (<http://yw.ao.ocha.ac.jp/Syllabus/>) に掲載してある履修登録マニュアルを参照してください。



## ⑤ その他

Web 履修登録についてのご相談は、総合学修支援センターにお越しく下さい。

## (3) 履修の取消し

実際に授業を受けた結果、履修登録時に思い描いていた授業内容と異なったことなどを理由に履修を取消したくなった場合に（集中講義は除く）、選択科目や履修学期が指定されていない必修科目について、前期科目は7月、後期科目については1月、通年科目については、7月と1月に履修取消しが行える「履修取消し手続き」制度があります。この手続きは所定の手続き期間内に学生自身が学内オンラインを使い Web での申請を介して行います。

なお、この期間に「履修取消し」した科目に替わる科目の追加登録をしたり、新たな科目を履修登録したりすることはできません。また、この期間外に履修取消しを行うことはできません。ただし、通年科目を7月に取り消した場合、その科目と同曜日同時間に開講される後期の授業科目を登録することはできます。

## (4) 聴講

単位取得を前提とせず、知識の修得を目的として受講を希望する場合、聴講希望科目の担当教員に伝え、聴講許可が出た場合、聴講登録（Web 履修登録）が可能となります。従って、授業には出席できますが、単位認定はされません。

## (1) 授業と休日

休業日は「学則 第3節 学年、学期及び休業日」の中に定められています。しかし、いろいろな行事や事由のため臨時に授業が休みとなる場合があります（半日、全日等）、春、夏、冬の休業期間の始めや終わりも必ずしも学則どおりにいかない場合もあります。それらはすべて教務チーム（学生センター棟1F）を通して掲示されます。また、教務関係行事日程は当該年度の「授業時間割」に記載されています。

- 前学期 4月1日から 9月30日まで
- 後学期 10月1日から翌年3月31日まで

### 授業時間（月曜日～金曜日）

1・2限	9:00 ~ 10:30
3・4限	10:40 ~ 12:10
5・6限	13:20 ~ 14:50
7・8限	15:00 ~ 16:30
9・10限	16:40 ~ 18:10

## (2) 休講

授業担当教員が公務、学会出席、病気等のためやむを得ず休講となる場合は、教員からの連絡により、掲示板に掲示されます。休講情報については、掲示板、学生ポータルサイト、携帯電話でも確認できます。

## (3) 補講

各学期末に補講期間を設けています。補講の有無については、当該授業で確認してください。また、交通機関のストライキ・台風等による運休に対する措置休講となった授業の補講については、別途発表します。

## (4) 交通機関のストライキ・台風等非常時に対する授業関係措置

### ① 交通機関のストライキ・台風等による運休に対する措置

交通機関のストライキ等運休に対して次のとおり措置します。

次のいずれかが運休した場合

- ・首都圏の JR 線
- ・地下鉄丸ノ内線・有楽町線と都営交通が同時に行ったとき
- ・東武東上線

#### 授業取扱

運休時間	授業の取扱
当日午前6時30分までに運転開始	平常どおり
当日午前6時30分まで運休	午前中休講
当日午前10時まで運休	全日休講

ただし、首都圏の JR 線の部分ストライキ（拠点ストライキ）等による運休の場合は平常どおり授業を行います。



# 4 単位制

各授業科目の単位は以下に述べるように、教室における学習だけで成り立っているわけではありません。教室での課題に対するレポート作成、予習・復習などの学習時間が含まれています。

この考え方は、下記の〔1単位の基準〕に基づくもので、このことを理解したうえで、1年間に履修登録する上限のめやすを50単位とし、実り多い履修を心がけてください。尚、この上限設定は、教員免許状等の資格取得のための科目履修には適用されません。

## (1) 単位の基準

### 〔1単位の基準〕

各授業科目は、1単位あたり45時間の学習を必要とする内容をもって構成することを標準として、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとなっています。

- ◇講義、演習については、15時間の授業をもって1単位とします。
  - ◇実験、実習及び実技については、30時間の授業をもって1単位とします。
- ただし、個人指導による実技及び教育実習等の授業科目、並びに卒業論文、卒業研究、特別研究又はこれに準ずる授業科目や資格に関する授業科目については、別に定めるところによります。

## (2) 入学以前に修得した単位及び検定等に合格している学生の単位認定

### 〔既修得単位の認定〕

既修得単位の認定を受けようとする者は、別紙様式1による「他大学等において修得した単位等に係る認定願」に成績証明書等を添えて、当該学部長に願い出てください。当該学部長は、教育上有益と認めるときは、当該学科長及び願い出のあった授業科目の関係教員等と協議のうえ、当該教授会の議を経て、既修得単位の認定を行います。

当該学部長より認定した科目及び単位について、別紙様式2による認定書が交付されます。

なお、単位の認定を行った場合は、認定した単位に代えて、他の授業科目の履修を行うなど履修内容の有益化を図るよう、各学部からの指導を受けてください。

○申請期限——入学した年度の前学期授業開始日の前日まで(教務チームに申請の申し出をし、申請手続の指示を受けること。)

別紙様式 1

他大学等において修得した単位等に係る認定願

平成 年 月 日

学部長 殿

所属 学部 学科 年

学籍番号

氏名 印

学則第17条 } の規定に基づき、上記のとおり本校において修得又は履修したものとみなし、  
学則第18条 } 単位を認定する。  
学則第22条2 }

認定を受けようとする科目・単位		認定の対象となる他大学等において修得した科目・単位等		
科目区分	授業科目名	単位	授業科目名等	単位等

○単位等の修得を行った機関名

○単位等の修得を行った時期 年度( 年 月～ 年 月)

別紙様式 2

他大学等において修得した単位等に係る認定書

平成 年 月 日

学籍番号

氏名

認定する授業科目		認定の基礎となった単位等		
科目区分	授業科目名	単位	授業科目名等	単位等

学則第17条 } の規定に基づき、上記のとおり本校において修得又は履修したものとみなし、  
学則第18条 } 単位を認定する。  
学則第22条2 }

お茶の水女子大学 学部長 印

## ② 台風等による気象警報の発表に伴う授業休講等の措置について

台風により、気象庁から東京23区西部に「暴風警報」が発令された場合、授業の取扱いは、次のとおりです。

暴風警報 (東京23区西部)	授業の取扱
午前6時30分の時点で、暴風警報が発令中の場合	午前の授業を休講
午前11時の時点で、暴風警報が発令中の場合	5・6・7・8時限の授業を休講
午後2時の時点で、暴風警報が発令中の場合	9・10時限以降の授業を休講

情報の確認 下記の方法により、確認してください。

◇気象庁から、東京23区西部において、警報(「暴風警報」)の発表

- ・気象庁のホームページ
- ・テレビ・ラジオ等のマスメディアによる確認

その他、気象状況の悪化、不測の事態による休講の取扱いについては、その都度、措置します。

休講となった授業の補講については、別途発表します。

## (5) 公欠等についての取扱い

学校保健安全法に定める感染症と診断された場合は、他の学生等に感染させてしまう恐れがあります。その場合は、治癒が確認された後に、医師の診断書を教務チームに提出してください。授業担当教員に、欠席及び評価に対する配慮を依頼する文書を交付します。

また、教育実習・介護等体験、裁判員に選出された場合の欠席の取扱いは公欠としますので、公欠願を教務チームまで提出してください。

〔外国語検定による単位の認定〕

『実用英語技能検定』1級又は準1級の合格者、『TOEIC』730点以上のスコアを持つ者、『TOEFL』550(PBT)／213(CBT)／79(iBT)点以上のスコアを持つ者、『中国語検定』4級以上の合格者、『中国語コミュニケーション能力検定』250点以上のスコアを持つ者、『漢語水平考試験』2級以上の合格者、『実用フランス語技能検定試験』4級以上の合格者、『ドイツ語技能検定試験』3級以上の合格者の単位認定は、別紙様式1による「他大学等において修得した単位等に係る認定願」にそれぞれの基準を満たしていることを証明する書類を添えて、当該学部長に願い出てください。当該学部長は、関係学科教員等と協議のうえ、当該教授会の議を経て、認定を行います。

当該学部長より認定した科目及び単位について、別紙様式2による認定書が交付されます。

なお、単位の認定を行った場合は、認定した単位に代えて、他の授業科目の履修を行うなど履修内容の有益化を図るよう、各学部からの指導を受けてください。

○申請期限——入学した年度の前学期授業開始日の前日まで(教務チームに申請の申し出をし、申請手続の指示を受けること。)

〔認定できる単位数〕

授業科目区分	授業の取扱
コア科目	※60単位を限度とする。
専門・専攻科目	
その他の授業科目	

※本学において修得した単位以外のものについて、上記単位数を上限とします。なお、各外国語検定等による認定単位は以下の表のとおりとします。

認定科目及び単位一覧

授業科目	条件	認定科目・単位
実用英語技能検定	準1級合格者	「基礎英語Ⅰ・Ⅱ」に相当する4単位を認定する。
	1級合格者	文教育学部の学生に関しては、「基礎英語Ⅰ・Ⅱ」及び「中級英語Ⅰ・Ⅱ」に相当する8単位を、理学部・生活科学部の学生に関しては、「基礎英語Ⅰ・Ⅱ」及び「中級英語」、「総合英語」に相当する8単位を認定する。
TOEIC	730点以上815点未満	「基礎英語Ⅰ・Ⅱ」に相当する4単位を認定する。
	815点以上	文教育学部の学生に関しては、「基礎英語Ⅰ・Ⅱ」及び「中級英語Ⅰ・Ⅱ」に相当する8単位を、理学部・生活科学部の学生に関しては、「基礎英語Ⅰ・Ⅱ」及び「中級英語」、「総合英語」に相当する8単位を認定する。
TOEFL	550(PBT)／213(CBT)／79(iBT)点以上580(PBT)／237(CBT)／92(iBT)点未満	「基礎英語Ⅰ・Ⅱ」に相当する4単位を認定する。
	580(PBT)／237(CBT)／92(iBT)点以上	文教育学部の学生に関しては、「基礎英語Ⅰ・Ⅱ」及び「中級英語Ⅰ・Ⅱ」に相当する8単位を、理学部・生活科学部の学生に関しては、「基礎英語Ⅰ・Ⅱ」及び「中級英語」、「総合英語」に相当する8単位を認定する。
中国語検定	4級合格者	「基礎中国語(文法)Ⅰ・Ⅱ」「基礎中国語(演習)Ⅰ・Ⅱ」に相当する8単位を認定する。
	3級以上合格者	「基礎中国語(文法)Ⅰ・Ⅱ」「基礎中国語(演習)Ⅰ・Ⅱ」「基礎中国語(応用)Ⅰ・Ⅱ」「発展中国語Ⅰ・Ⅱ」「発展中国語Ⅲ・Ⅳ」のいずれかに相当する12単位を認定する。
中国語コミュニケーション能力検定	250点以上400点未満	「基礎中国語(文法)Ⅰ・Ⅱ」「基礎中国語(演習)Ⅰ・Ⅱ」に相当する8単位を認定する。
	400点以上	「基礎中国語(文法)Ⅰ・Ⅱ」「基礎中国語(演習)Ⅰ・Ⅱ」「基礎中国語(応用)Ⅰ・Ⅱ」「発展中国語Ⅰ・Ⅱ」「発展中国語Ⅲ・Ⅳ」のいずれかに相当する12単位を認定する。
漢語水平考試験	2級合格者	「基礎中国語(文法)Ⅰ・Ⅱ」「基礎中国語(演習)Ⅰ・Ⅱ」に相当する8単位を認定する。
	3級以上合格者	「基礎中国語(文法)Ⅰ・Ⅱ」「基礎中国語(演習)Ⅰ・Ⅱ」「基礎中国語(応用)Ⅰ・Ⅱ」「発展中国語Ⅰ・Ⅱ」「発展中国語Ⅲ・Ⅳ」のいずれかに相当する12単位を認定する。
実用フランス語技能検定試験	4級合格者	「基礎フランス語(文法)Ⅰ・Ⅱ」「基礎フランス語(演習)Ⅰ・Ⅱ」に相当する8単位を認定する。
	3級以上合格者	「基礎フランス語(文法)Ⅰ・Ⅱ」「基礎フランス語(演習)Ⅰ・Ⅱ」「基礎フランス語(応用)Ⅰ・Ⅱ」「発展フランス語Ⅰ・Ⅱ」「発展フランス語Ⅲ・Ⅳ」のいずれかに相当する12単位を認定する。

授業科目	条件	認定科目・単位
ドイツ語技能検定試験	3級合格者	「基礎ドイツ語(文法)Ⅰ・Ⅱ」「基礎ドイツ語(演習)Ⅰ・Ⅱ」に相当する8単位を認定する。
	2級以上合格者	「基礎ドイツ語(文法)Ⅰ・Ⅱ」及び「基礎ドイツ語(演習)Ⅰ・Ⅱ」「基礎ドイツ語(応用)Ⅰ・Ⅱ」「発展ドイツ語Ⅰ・Ⅱ」「発展ドイツ語Ⅲ・Ⅳ」のいずれかに相当する12単位を認定する。

(3) 英語の単位認定を受けた場合の履修に関する特別措置

- ①入学以前に『実用英語技能検定』(文部科学省認定・財団法人日本英語検定協会主催)準1級、『TOEIC』(財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会主催)730点以上815点未満のスコアもしくは『TOEFL』(Educational Testing Service(ETS)主催)550(PBT)／213(CBT)／79(iBT)点以上580(PBT)／237(CBT)／92(iBT)点未満のスコアを持っている学生は、単位認定を申請することにより「基礎英語Ⅰ・Ⅱ」に相当する4単位を認定されます。残りのコア外国語の必修単位の履修については、特別措置【P.8参照】が適用されます。
- ②入学以前に『実用英語技能検定』1級、『TOEIC』815点以上のスコアもしくは『TOEFL』580(PBT)／237(CBT)／92(iBT)点以上のスコアを持っている学生は、単位認定を申請することにより、文教育学部の学生に関しては、「基礎英語Ⅰ・Ⅱ」及び「中級英語Ⅰ・Ⅱ」に相当する8単位を、理学部・生活科学部の学生に関しては、「基礎英語Ⅰ・Ⅱ」、「中級英語」及び「総合英語」に相当する8単位を認定されます。残りのコア外国語の必修単位の履修については、特別措置【P.8参照】が適用されます。

(4) 海外研修による単位認定

本学が提携した海外の大学での語学研修、ならびに語学教育の内容を含む海外研修を行うことによりコア科目(外国語)の英語の単位として認定します。

- ①研修の参加資格は以下のとおりです。
  - 1)「基礎英語Ⅰ(・Ⅱ)」をすでに修得済み、又は「基礎英語Ⅰ(・Ⅱ)」を履修中であること。\*
  - 2)『TOEIC』スコア500点以上を取得していることが望ましい(この場合のスコアは、『TOEIC』の正規の公開テスト、本学主催のTOEIC IPテスト、本学消費生活協同組合主催のCollege TOEICのいずれのスコアでもよい)。
  - 3)事前・事後教育に参加できること。
 

\*研修参加希望者が募集定員に満たない場合に限り、この条件を満たさない学生の参加を認めます。
- ②以下の条件を満たし、所定の期間に単位認定の申請を行うと、コア科目(外国語)の英語の単位が認定されます。認定単位数は海外研修の参加回数にかかわらず4単位を上限とします。認定可能な科目と単位数は研修ごとに異なるため、詳細は研修説明会にて発表します。
  - 1)本学で行う事前・事後教育に参加すること
  - 2)海外研修の全期間にわたって研修に参加すること
  - 3)研修を受けた大学により研修の修了が認められること
  - 4)本学で課した課題を研修後に提出すること
- ③研修希望の提出等に関する手続きについては、学生センターの掲示をよく見て、指定された期間内に申し込んでください。参加希望者が募集定員を上回った場合は選考を行います。

(5) 学部学生交流協定に基づく単位互換制度

本学では東京工業大学、東京芸術大学、東京外国語大学、共立女子大学(生活科学部のみ)、東京海洋大学(理学部のみ)との単位互換制度を実施しています。ついては、当該大学の授業科目の履修(特別聴講学生)を希望する学生は、申込関係の資料を教務チームで受け取り、所定の期日までに手続きをしてください。



学部学生交流協定校一覧

協定先	受入・派遣学生の条件				履修可能学部
	対象学生	文教育学部	理学部	生活科学部	
東京工業大学	—	○	○	○	理学部／工学部／生命理工学部
東京芸術大学	—	○	○	○	音楽学部
共立女子大学	—	×	×	○	家政学部
東京外国語大学	2年生以上	○	○	○	外国語学部
東京海洋大学	—	×	○	×	海洋学部

派遣学生申請書

**派遣学生申請書**

平成 年 月 日

文教育学部長  
理学部長 殿  
生活科学部長

所属 学部 学科 コース・講座  
氏名  
学籍番号  
連絡先

私は、平成 年度に 大学 学部において下記科目を履修したいので、派遣学生として許可願います。

記

科目番号	科目名	教官名	単位数	学期	曜日	時限

※選択科目として認定を希望する場合は、本学の読み替え科目名

※読み替え科目については、学科の承認を得ること。

上記科目を履修することを承認します。

学科 学年担当  
氏名 ㊟

# 5 試験及び成績評価

## (1) 試験

学年を分けて、9月30日までが前学期、10月1日以降が後学期です。各期の終りに一定の期末試験が設けられています。各科目とも前学期、後学期それぞれの終了時に試験を行うのが原則ですが、前期末の試験を省く科目もあります。前期だけで終わる科目は、前期末に試験を行います。

これらの試験は、その期間内の平常の時間割で行われるのが通例です。学生は、事前に教員と必ず打合わせ、筆記試験・レポートの別、その日時・場所について承知しておかねばなりません。

なお、試験際には学生証の提示を求める場合があります。また、遅刻した場合の入室制限及び退室を認める時間を設けることがあります。

### 不正行為

カンニング等の不正行為は学生にとってあるまじき行為であり、本学では以下のように処します。

I 試験において不正行為を行った者については、教育機構長は、別に定める手続きにより、次の措置を行います。

- (1) 当該学期履修科目の全ての受験科目を無効とする。
- (2) 学内に当該措置（措置事例）について告示する。

II 前項の不正行為については、同項に規定する措置のほか、学則第66条に規定する懲戒の対象とします。

### 追試験

病気その他止むを得ない理由により、期末試験を受けられなかった学生については、担当教員が特に必要があると認められた場合に限り追試験を行うことがあります。

追試験を希望する者は期末試験終了後、1週間以内に教務チーム（学生センター）を経て担当教員に「追試験願」を提出しなければなりません。

ただし、卒業・修了予定者は直ちに申し出ることとします。

いずれの場合も、原則として「やむを得ない理由」を証明する書類が必要です。

## (2) 成績評価

### ① 成績評価

成績の評価は、原則として試験、平常の成績及び出席状況を総合して、100点満点、60点以上を合格とする素点による評価またはレターグレード（S、A、B、C、D（不合格））による評定で評価されます。成績通知票・成績証明書には合格科目それぞれについて以下のとおり記載されます。

レターグレードと評点区間、及び評価基準の対応関係は次のとおりです。

- S（90点以上）：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
- A（90点未満～80点以上）：基本的な目標を十分に達成している。
- B（80点未満～70点以上）：基本的な目標を達成している。
- C（70点未満～60点以上）：基本的な目標を最低限度達成している。
- D（60点未満不合格）：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価は上記の評価基準のほか、S評価を評価対象者の15%以内（履修者数が10人未満の場合は2名以下）に留めることを目安にした評価基準を設けて評定されます。履修放棄によって評定できない場合はD（不合格）となります。授業科目によって素点評価がなされる場合とレターグレードで評定される場合がありますが、後者の場合はつぎの規定により評点が定まります。

S = 95、A = 85、B = 75、C = 65、D（不合格） = 55

### ② GPA 制度

本学は学生の視点に立った教育改革を推進するため、米国やアジア諸国で行われているGPA（Grade Point Average）制度を導入しました。この制度は、各学生の授業科目ごとの成績評価を一定の方法でグレードポイント（GP）

に置き換え、その GP に該当の科目の単位数を乗じて、それを履修数分合算し、その値を登録科目総単位数で割って算出するものです。

GPA 制度は単位数という学習の「量」だけでなく、成績評価に基づく「質」について保証するものです。GPA により、学期（セメスター）毎の学習の成果がより明確となり、学生の学習意欲の向上や履修登録の自己規制、さらに各自の努力目標が具体的になることなどをねらいとしています。ここでは、学生にとって、大切と考える目的や効果を3つあげます。

1) 学ぶ意欲がいっそうに増す

個々の科目における学習改善努力が成績に反映しやすくなります。これまでは成績評価が5段階のみであらわれ、粗かったため、多少の努力のほどは成績評価値になかなか反映されませんでした。

GPA では科目の試験やレポートの素点評価がリアルに成績に反映するので、学習努力の違いが成績差異としてはっきりみえやすくなります。したがって、自分自身の成績改善に向けての動機が高まり、授業への積極的な参加意欲が増すことになるでしょう。

また、単に単位の修得だけでなく、よりよい成績をとることの意味が実感できるようになります。

2) 不合格を避け、しっかり履修

GPA の算定ではある科目が不合格になると、その GP は 0 で、しかも GPA 算定の分母にはその科目の単位数が加算されます。そのため、不合格をとると最終的な GPA の値に大きなダメージを負います。

これまでのように不合格科目は成績証明書に記載されず、必修科目でない限り何の損失も被らないというようなことはなくなります。ただし、一度不合格になった科目でも再履修してあらためて合格の成績をとれば、その新たな成績が上書きされてあらためて GPA 算定がなされます。

ともあれ GPA 制度のもとでは、履修した科目は不合格にならないように気をつけることが大事になります。そのためには、科目履修の際に必要な以上に多くの科目を履修してあとで負担にならないよう十分留意し、計画的な履修をすることが大切になります。

3) 自分の成績の位置づけがわかるとともに各種選考基準の透明性が増す

学期ごとに学科目の GP や GPA 値を確認しながら、学内での自分の成績の相対的な位置づけを確認していくことができます。さらに、今後、奨学金の貸与基準、特定の科目の履修基準、種々の学内選考の際の基準指標などに GPA 値が使われるようになりますので、目指すべき成績について具体的な目標を設定しやすくなります。

また、就職や留学、進学など対外的な場面で、この値が求められても対応できることになります。

③ GPA の算定方法

GPA は、授業科目ごとの成績評価（100 点満点の素点評価 SS）をつぎに示した 1) の算定方法で GP に置き換え、つぎに 2) の算定方法で、その GP に該当の科目の単位数を乗じて、それを履修科目数分合算し、その値を履修総単位数で除することにより求めます。

- 1)  $GP = (SS - 55) / 10$       ただし、 $GP < 0.5$  は  $GP = 0.0$  とする。  
SS は 100 点満点の素点評価
- 2)  $GPA = (\text{履修科目の } GP \times \text{当該科目の単位数}) / \text{履修総単位数}$   
・履修総単位数には不合格となった科目 ( $GP = 0$ ) の単位数も含まれる。

④ 2つの GPA 指標 (f-general GPA と f-strict GPA) の併用

本学では GPA の機能特性を十全に発揮させ、かつ国内外の大学との通用性を確保するため、f-strict GPA と f-general GPA (f は functional の略)、2つの指標を併用します。

f-strict GPA は現在、多くの大学で採用されている GPA と実用上、十分な互換性をもっていることが検証済みです。しかし、成績のトップゾーンにかぎってはとくに米国と我が国の多くの大学において GP (A) の最高点を 4.0、合格域の最低点を 1.0 にしているのに対して、f-strict GP (A) では最高点が 4.5、最低点が 0.5 になります。そこで他機関との通用性を優先して、本学では対外的に用いる GPA として f-strict GP が点 4.0 以上の値 (100 点満点換算で 95 点以上) を一律 4.0、1.0 以下、0.5 以上の値を一律 1.0 にした f-general GP も用います。

一方、学内で GPA を種々の用途に使う場合には (成績の全範囲について原成績を忠実に反映する) f-strict GP (A) を用います。

<事 例>

functional GPA 算定の例示

○ 5 科目 17 単位数の場合の GP とそのアベレージがどのように求められるか

科目	単位	成績評点	LG	f-strict GP	f-strict GP × 単位数	f-general GP	f-general GP × 単位数
地理概論	2	84	A	2.90	5.80	2.90	5.80
地 学	2	98	S	4.30	8.60	4.00	8.00
地学演習	4	50	D	0.00	0.00	0.00	0.00
地学実験	1	66	C	1.10	1.10	1.10	1.10
卒業研究	8	70	B	1.50	12.00	1.50	12.00
計	17				27.50		26.90

5 と 7 カラム目の GP は次式で求めます。成績評点は 100 点満点ですが、科目によっては小数点以下の値をもった評価もありえます。

$$GP = (\text{成績評点} - 55) / 10 \quad (\text{ただし、} GP < 0.5 \text{ は } GP = 0.0 \text{ とする})$$

最後に、 $GP = \Sigma (GP \times \text{当該科目の単位数}) / \text{履修総単位数}$  ですので、上例では、

$$f\text{-strict GPA} = 27.50 / 17 = 1.617$$

$$f\text{-general GPA} = 26.90 / 17 = 1.582 \quad \text{となります。}$$

★留意点

- ・上例の値は段階評価でいえば、良のゾーンの下限近くに相当します。ですから、上例は全体としてあまりよくない成績の事例です。
- ・上例では地学演習 (通年 4 単位) で不合格をとっているため、GP が 0 となり、しかも単位数が相対的に大きかった科目であるため、GPA が大きく損失しています。仮に、この科目で 80 点をとってれば、f-strict GPA は 2.205 でした。
- ・ちなみに、よく学ばれて各科目で比較的よい成績をとった好ましい例もシミュレーションしておきましょう。

科目	単位	成績評点	LG	f-strict GP	f-strict GP × 単位数	f-general GP	f-general GP × 単位数
地理概論	2	84	A	2.90	5.80	2.90	5.80
地 学	2	98	S	4.30	8.60	4.00	8.30
地学演習	4	80	A	2.50	10.00	2.50	10.00
地学実験	1	90	S	3.50	3.50	3.50	3.50
卒業研究	8	85	A	3.00	24.00	3.00	24.00
計	17				51.90		51.60

$$f\text{-strict GPA} = 51.90 / 17 = 3.052$$

$$f\text{-general GPA} = 51.60 / 17 = 3.035$$

米国の損保会社には GPA が 3.0 以上の成績をもつ学生の自動車保険料を 25% 割引にするなどの特典を設定しているところがあります。この値がもつ社会的通用性の一面をあらわしています。

⑤ GPA 算定の対象科目

他大学などでの履修 (留学を含む) や本学における評価でレターグレードや素点ではなく、単位認定として評価される科目や「合否・不合格」による評定で成績がでる科目を除く総ての科目が対象になります。

⑥ 成績通知票・成績証明書への記載

成績通知票や成績証明書にはその趣旨説明とともに f-strict GP (A)、f-general GP (A) 両指標を併記します。

また、GPA 算定方法の説明や「不可」評価の単位数を記載し、成績と GPA 間の整合性を明白にします。



# 6 学籍・修業年限・学費

学籍とは、本学の学生としての身分を有していることをいいます。学籍は入学によって発生し、卒業、退学、除籍によって失われます。在学とは、学生が本学の学籍を有し、現に学修している状態をいいます。在学期間とは、その学修している期間をいいます。修業年限とは、本学の教育課程を修了するために必要な最小の在学期間をいい、在学年限とは、本学に在学できる最長の在学期間をいいます。なお、休学期間は在学期間には含めません。

## (1) 修業年限

修業年限は4年です。修業年限の2倍を超えて在学することはできません。ただし、編入学、転学部・転学科等による学生は、修業すべき年数の2倍を超えて在学することはできません。また、入学前に、本学の科目等履修生として一定の単位を修得した者が入学する場合、規定により認められた単位の全部、又は一部が教育課程の一部を履修したと認められるときは、当該学部教授会の議を経て、規定する修業年限について当該単位数、その修得に要した期間その他を考慮して、2分の1を超えない範囲でその修業年限に通算することができます。

## (2) 休学

病気その他の事由により引き続き2か月以上修学することができないときは、事由を添えて学長に願い出てその許可を得る必要があります。なお、休学の期間はその学年末までとし、特別の事情があるときは、引き続き休学を願い出ることができます。

### ■留意事項

- ・休学期間は、通算して定められた修業年限の年数を超えることができません。
- ・休学期間は、在学期間には算入しません。
- ・休学期間中にその事由が消滅したときは、学長の許可を得て復学することができます。

## (3) 復学

休学の理由が解消して復学を希望する者は、その理由を具して学長に願い出て、許可を受けなければなりません。

## (4) 退学

退学を希望する者は、その理由を具して学長に願い出て、許可を受けなければなりません。

## (5) 除籍

次の各号のいずれかに該当する者は、当該学部教授会の議を経て、学長が除籍します。

- ・授業料の納付を怠り、督促してもなお納付しない者
- ・本学則に定める第14条第2項に定める在学年限を超えた者
- ・本学則に定める第14条第3項に定める休学期間を超えてなお修学できない者
- ・長期間にわたり行方不明の者
- ・入学料の免除を申請した者で、免除を許可されなかった場合又は半額免除を許可された場合であって、納付すべき入学料の全額又は半額を所定の期日までに納付しない者

## (6) 転学

本学から他の大学に転学しようとする者は、学長の承認を得なければなりません。

## (7) 留学

本学には大学間交流協定校に留学する「交換留学派遣制度」があります。交換留学生として派遣されるためには、学内の選考を経て協定校の承諾を得る必要があります。留学期間は修業年限に含まれ、修得した単位は一定の条件により認定を受けることができます。

## 派遣先大学一覧

(2011年3月現在)

協定校	国名	締結年月日
アジア		
淑明女子大学校	大韓民国	2000. 2. 14
同徳女子大学校	大韓民国	2005. 3. 30
梨花女子大学校	大韓民国	2000. 2. 28
タマサート大学	タイ	2007. 6. 13
チェンマイ大学	タイ	2010. 5. 27
プリンス・オブ・ソンクララー大学	タイ	2009. 8. 14
国立政治大学	台湾	2001. 7. 25
国立台北芸術大学	台湾	2002. 1. 29
国立台湾大学	台湾	1999. 12. 17
大連外国語学院	中国	2006. 10. 2
北京外国語大学	中国	2005. 10. 17
北京大学歴史学系	中国	2002. 1. 26
国立ハノイ教育大学	ベトナム	2008. 3. 3
中 東		
アンカラ大学	トルコ	2007. 8. 8
カイロ大学	エジプト	2007. 3. 15
マンソウラ大学	エジプト	2003. 3. 30
北 米		
ヴァッサー大学	アメリカ	2006. 6. 1
パーデュ大学	アメリカ	2004. 1. 26
マウントアリソン大学	カナダ	2006. 8. 9
オセアニア		
モナシュ大学	オーストリア	1994. 12. 14
オタゴ大学	ニュージーランド	2003. 12. 19

協定校	国名	締結年月日
ヨーロッパ		
オックスフォード大学 クイーンズコレッジ	イギリス	1994. 1. 18
ケンブリッジ大学ガートンコレッジ	イギリス	1994. 7. 20
マンチェスター大学	イギリス	2009. 9. 15
ロンドン大学 東洋・アフリカ研究学院	イギリス	1999. 8. 5
国立ナポリ大学 オリエンターレ	イタリア	2011. 1. 11
ウィーン工科大学	オーストリア	2002. 12. 5
スロバキア工科大学	スロバキア	2003. 3. 4
カレル大学	チェコ	2004. 9. 7
ケルン大学	ドイツ	2010. 3. 18
ブレーメン応用科学大学	ドイツ	2011. 1. 21
パーギシェ・ブッパタル大学	ドイツ	2002. 2. 24
オウステロボテニア先端科学大学	フィンランド	2009. 12. 1
タンペレ大学	フィンランド	2003. 2. 13
ストラズブル大学	フランス	2002. 7. 5
パリ・デイドロ (パリ第7) 大学	フランス	2008. 2. 1
ブレーズ・パスカル (クレルモン第2) 大学	フランス	2009. 8. 28
ワルシャワ大学	ポーランド	2010. 2. 10
ブカレスト大学	ルーマニア	2009. 8. 3
トムスク国立教育大学	ロシア	2002. 7. 3
ロシア連邦国立科学センター 理論実験物理学研究所	ロシア	2004. 6. 21

※1. 協定大学44校の内、学生を派遣できる協定校のみを記載しています。

※2. 協定校は随時更新されますので、最新情報は以下の大学HPにてご確認ください。

<http://www.ocha.ac.jp/intl/exchange.html>

## (8) 転学部及び転学科

学部内の他学科等または他学部への転入（以下「転学部・転学科」という）を考えている学生はまずは学年担当の教員等に相談してみてください。所属の学科や転入希望先の学年担当教員、学科長、学年担当が相談に応じます（これらの教員の連絡場所や連絡方法が分からないときは、教務チームに問い合わせください。）

転学部・転学科の手続きなどの取扱は、次のとおりです。教務チームが窓口になっています。できるだけ早い時期に願ひ出てください。

- ①転学部・転学科を申し出ることのできる学生は、転学部・転学科の時期において在学1年以上となる見込みのものとし、転学部・転学科の期日は、4月1日とします。
- ②「転学部・転学科願」は所定の様式により、教務チーム（学生センター）に前年度1月末日までに提出してください。転学部・転学科受験許可は、受入れ学科等の了承を得た上、2月中旬までに所属学部教授会の議を経るものとします。この受験許可にあたっては、受入れ学科等の収容人員などの事情が考慮されます。
- ③受験許可の場合の試験期間は、2月下旬より3月上旬までの間に行ってください。
- ④転学部・転学科の可否の判定は、次の各号を総合判定し、受入学部教授会の議を経て決定します。
  - ・入学者選抜試験の成績
  - ・在学中の成績
  - ・転学部・転学科試験成績
  - ・面接
- ⑤転学部・転学科の可否は、本人に通知します。
- ⑥転学部・転学科が認められた者の在学期間は、受入学部教授会の議を経て決定します。

# 7 学生サポート

## (1) 本学ホームページの紹介 <http://www.ocha.ac.jp>

休講をはじめ、大学で行われている研究やシンポジウムなどの告知が数多く発信されています。履修に関することや授業のシラバス、行事予定なども確認することができます。

また、奨学金や授業料免除、学生寮のことなど最新情報が掲載されていますので、積極的に活用してください。

大学ホームページで確認できる一覧

学生生活関係	<input type="checkbox"/> 奨学金 <input type="checkbox"/> 授業料免除 <input type="checkbox"/> 授業料 <input type="checkbox"/> 学生寮（国際学生宿舎、小石川寮、お茶大 SCC） <input type="checkbox"/> 課外活動（届出、貸出物品一覧など） <input type="checkbox"/> 学園祭 <input type="checkbox"/> 学生相談室 <input type="checkbox"/> 就職 <input type="checkbox"/> ピアサポートプログラム <input type="checkbox"/> 拾得物・遺失物
履修関係	<input checked="" type="checkbox"/> 休講情報 <input checked="" type="checkbox"/> 教室変更 <input checked="" type="checkbox"/> 時間割り変更 <input checked="" type="checkbox"/> インフォメーション <input type="checkbox"/> 休学・復学・退学の手続き <input checked="" type="checkbox"/> 履修登録日程 <input checked="" type="checkbox"/> 成績通知日時 <input type="checkbox"/> シラバス <input type="checkbox"/> 教務年間日程 <input type="checkbox"/> 教員免許など各種資格取得 <input type="checkbox"/> 学部・院 教育研究者情報 <input type="checkbox"/> 各学部・大学院紹介 <input type="checkbox"/> 科目等履修生、研究生、聴講生の募集 <input type="checkbox"/> 証明書発行の手続
その他	<input type="checkbox"/> 本学の歩み <input type="checkbox"/> 同窓会・後援会・生活協同組合 <input type="checkbox"/> 国際交流（留学） <input type="checkbox"/> イベント情報 <input type="checkbox"/> 公開講座 <input type="checkbox"/> セミナー案内 <input type="checkbox"/> 大学刊行物 <input type="checkbox"/> 図書館、情報基盤センターなど各種センター利用案内

注) ■印の情報は携帯電話でも確認することができます。

## (2) 学生ポータルサイトの紹介

大学ホームページ以外にも、学内はもちろん学外からでも授業や学生生活に関する情報にアクセスが可能な学生ポータルサイトを開設しています。なお、学生ポータルサイトへのアクセスには「お茶大アカウント」が必要です。

パソコン用ホームページ <http://tw.ao.ocha.ac.jp>  
 携帯電話用ホームページ <http://tw.ao.ocha.ac.jp/k/>

## (3) 教務関係事務の相談

履修上の各種の疑問は、学年担当や教務チーム（学生センター棟1F）に問合わせ、事務担当窓口で解決できないときは、委員会や教授会等に諮りますから教務チームに相談してください。

## (4) 総合学修支援センター

「複数プログラム履修」に関する履修相談、GPA 制度、カラーコードベンチマークに関する相談等、その他、総合的な学修相談、学修の支援を行います。

## (5) グローバル教育センター

外国人留学生及び海外留学を希望する日本人学生に対し、修学及び生活に必要な教育・指導助言を行うとともに、地域と連携した留学生のための支援事業を実施します。

## (6) 外国語教育センター

コア外国語教育の履修指導、本学企画の海外語学研修への協力（単位認定のためのオリエンテーション等）、マルチメディア語学ラボ（MMLL）（共通講義棟1号館201室）での外国語の自習指導などを行います。また、言語文化学科英語圏コースと協力して国内語学キャンプ（イングリッシュ・キャンプ）を企画・実施します。

転学部・転学科願

平成 年 月 日

お茶の水女子大学長 殿

学科長		学年担当	
-----	--	------	--

氏名	学部	学科	平成	年度	生
_____	_____	_____	_____	_____	_____
(〒 _____ )					
連絡先					
_____					
(TEL _____ )					

下記理由により \_\_\_\_\_ 学部 \_\_\_\_\_ 学科 \_\_\_\_\_ へ  
 転 学部・学科 したいので許可くださるようお願いいたします。

理 由

学部長		教務チーム	
-----	--	-------	--

## (9) 学費

①授業料は、毎年下記の期限までに、年額（535,800円、平成23年4月1日現在による）の2分の1ずつを2期に分けて納めてください。なお、銀行振込の場合一括で納めていただいても構いません。口座振替の場合は、各自の登録口座へ、銀行振込の場合は、本学指定口座へ、以下の期限までに振り込んでください。

前期分	口座振替	5月27日
	銀行振込	5月31日
後期分	口座振替	11月27日
	銀行振込	11月30日

上記期間内に納入されない場合は、除籍の対象となる場合がありますので、注意してください。

なお、口座振替日は変更する場合がありますので、大学ホームページをご覧ください。

②経済的事由により、納付が困難であり、かつ学業が優秀と認められる者又はその他やむを得ない事情があると認められる者で、当該学部を経て学長に願いが出たときは、授業料の全部又は一部を免除し、又は授業料の徴収を猶予することがあります。



### (7) 諸証明書の発行

学生が卒業見込証明書、成績証明書を希望するときは、学生センター棟2Fに設置されている自動発行機で受けとることができます。そのほかの証明書や卒業後に卒業証明書等を希望するときは、教務チーム（学生センター棟1F）備付けの「証明書交付願」に記入してください。その場合は4日目（ただし、土・日・祝日は除く）までに作成します。

### (8) 掲示の場所

事務から学生に連絡する事項は、主に掲示板に掲示します。又、学部に関する場合は、各学部の掲示板に掲げることもあります。見落としのないよう、毎日一度は掲示に注意してください。

### (9) 学生センターの窓口業務と諸手続一覧

種 別		担当窓口	電 話 03-5978	期 限	参 照
履 修 ・ 授 業 関 係	履修相談、学業成績、授業時間割（補講・休講・変更・定期試験）	学生センター 教務チーム・教務係	2772～3 5140	その都度	履修ガイド参照
	履修登録届			別に指示	
	追試験願			1週間以内	
	卒業（見込）証明書（自動発行機で発行可能）			4日前	
	※成績証明書			4日前	
	転学部・転科願			1月末まで	
	他大学等において習得した単位等に係る認定願			その都度	
免 許 ・ 実 習 関 係	教職関係（教員免許状・教育実習）	学生センター	5141～2	その都度	キャンパスガイド参照
	その他資格（学芸員課程・社会教育主事）			〃	
	教育職員免許上一括申請受付			7月及び12月	
	教育実習履修届			別に指示	
	教員免許上取得見込証明書発行 単位取得証明書発行			その都度 〃	
身 上 異 動 関 係	住所変更・身分異動届	学生センター	5141～2	その都度	キャンパスガイド参照
	休学届、退学届、復学届			〃	
	住所変更届			〃	
	保証人変更届			〃	
	改姓届、本籍変更届			〃	
科 目 等 履 修 生 ・ 研 究 生 関 係	科目等履修生・研究生・特別聴講学生受付	学生センター	2722	毎年受付される期間内	キャンパスガイド参照
	単位修得証明書発行			〃	
授 業 料 納 付 ・ 施 設 使 用	授業料に関する問い合わせ	財務チーム	5119 5120～2	その都度	キャンパスガイド参照
	授業料の納付・領収書発行			前期4月末日 後期10月末日	
	志賀高原体育運動場・館山野外教育施設使用申込書	施設環境チーム	5125	その都度	
学 生 生 活 関 係	各種届出・物品貸出	学生センター 学生・キャリア支援チーム学生係	5147	その都度	キャンパスガイド参照
	習得・遺失物届			〃	
	掲示物届出			〃	
	下宿・アパート紹介			〃	
	学生証			入学時	
	※在学証明書			その都度	
	※学割証			〃	
	通学証明書			〃	
	学生証再交付願			〃	
災害傷害保険	〃				

種 別		担当窓口	電 話 03-5978	期 限	参 照
課 外 活 動 関 係	学生サークル・課外活動	学生センター 学生・キャリア支援チーム学生係	5147	〃	キャンパスガイド参照
	微音祭			〃	
	課外活動施設			その都度	
	団体設立届（願）			〃	
	集会届（願）			〃	
	印刷物の配布、販売署名運動等届出			〃	
	登山届			〃	
テニスコート利用願	〃				
奨 学 金 ・ 授 業 料 免 除 ・ 学 費 貸 付 関 係	奨学金（日本学生支援機構、地方公共団体、学内奨学金、その他）	学生センター	5148 5147	掲示の都度	キャンパスガイド参照
	奨学生願書			〃	
	授業料免除申請書			〃	
	授業料徴収猶予（月割分納）申請書 学費貸付金申込			その都度	
寮 関 係	学生寮	学生センター	5147	〃	キャンパスガイド参照
	入居申請書			掲示の都度	
	入寮願			〃	
	退去願			〃	
就 職 関 係	就職指導・相談	キャリア支援センター	5658	その都度	キャンパスガイド参照
	就職情報・資料収集			〃	
	家庭教師・アルバイト			〃	
	就職内定届・就職登録票 推薦書			〃	
保 健 関 係	健康相談・体調管理など	保健管理センター	5156	その都度	キャンパスガイド参照
	※健康診断書			〃	

※自動発行機で発行可能